

調査報告：藤山正二郎

日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤研究 A (1) 研究課題「中央アジアにおけるウイグル人地域社会の変容と民族アイデンティティに関する調査研究」(研究代表者、新免康中央大学教授)

以下は中国・新疆ウイグル自治区、特にカシュガルとホータンでの現地調査の報告である。テーマはマシュラップ、結婚、ウイグル医学など多岐にわたる。フィールドノートの比較的まとまっているものを選択したが、それでも断片的で読みづらい報告になってしまった。生のデータをそのままお伝えしたいということでお許し願いたい。調査の映像記録は下記の私のホームページにある。聞き取り調査に協力いただいたお名前などは都合により記述していないが、それでもウイグルの人たちの好意がなくては、この調査はできなかつた。皆様に感謝を申し上げます。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/fsho2/>

2003年 9月.11日、福岡発、北京着

9月.12日、ウルムチ

9月 13日、カシュガルで9月.18日まで調査

9月 19日、ウルムチで9月 20日まで調査

9月 21日、北京

9月.22日、福岡

【マシュラップ】 マシュラップは種類が多い。

1、カタルマシュラップ (順番) 数人の友達が皆知り合いの地元で行う。集まる。今日は、明日はと持ち回りで、それぞれ順番で自分の家で行う。

2、カル (雪) ラックマシュラップ 雪が降った日に、紙に遊びと時間を書いて、他の人のかばんに入れる、その時間までにわたしがつかまれば、自分の家に招待する。つかまらなければ、相手が招待する。お金があれば羊を1頭ごちそうする、なければ果物でもよい。私の大学の学生もやっている。カルガリック、ヤルカンドに多い。

3、ターグ (山) マシュラップ、農業、牧畜の人々がする。タジクやクルグスが多い。

4、ドランマシュラップ、ネゲット県、バーチュウ県、アクスのアワティ県に多い。年の始まりのノルズの祭り (日本の桜祭りのようなもの) の時期に、昔、アクサカルや村長が相談した。イスラムの知識を持つ人 (タリバン) が学校を卒業して、各地に

イスラムの宣伝に来て、教育のために村長と相談する。ノルズはイスラム以前から存在した。3月21日ごろ1週間ぐらい行う。水利の責任者、農業、宗教の責任者らが相談する。1年の重要な会議であった（今はない）。今、ノルズは民俗舞踊だけになっている。地方によってマシュラップの内容は違う。

村と村とが仲良くし、いさかいをなくすために、村が持ち回りでマシュラップを行った。昔は法律がないから自由に参加できたが、今は誰が参加するか、役所に届けたいといけない。一昨年、ノルズのときアトシュで全員参加、政府後援でやった。参加者は舞踊する人、役人、近所の人など。親戚は関係ない。酒は飲まない、食事、踊りがある。にわとり、羊、人が相撲競技のように戦う。マシュラップの人間関係で金を融通しあう、講のようなものはない。例えば、橋が流された、誰かが亡くなった、石炭がない、水がないときには、お金持ちは寄付する。参加者はお金を出さない。主催する人がごちそうする。今は、組織者は地方政府であり、ノルズは地区で行う。昔はモスクにワクフ（寄進地）があり、そこからの収穫の収益でマシュラップも行った。現在、ワクフは政府の土地になっている。今、マシュラップは小さなものでも自由に行えない、集会をしたら、政治的だと疑われる、集会はすべて地方の政府に届けなければならない。冠婚葬祭でもなければ、今は組織する人もいない。昔は偉い人、アクサカル、アホンなどが組織した、など。現在の宗教委員会は、モスクの管理、掃除などを行っている。

5、チューラックマシュラップ。

他人を招待し、見ず知らずの人も来る。隣の知名人を招待する、そのとき300人位連れてきてくださいと伝える。内容は子どもの結婚式、モスクを建てたなど、めでたいときを祝うためする。金持ちに初めて息子が生まれたときなど、金持ちが参加者に施しをする。よその地域の人も訪れる。馬の競走もあり、羊を賭ける。女性は自分で作った詩で互いにやり取りする。このような大きいマシュラップは今はない。最近アトシュでのマシュラップは地方政府がお金を出し、伝統的な民族習慣を見せ、ふるさとを宣伝した。

6、クック（緑）マシュラップ、ハミのノルズマシュラップの一部。マシュラップはアラビア語ではなく、トルコ語の遊びと言う意味。トイ（お祝いの儀礼）はマシュラップではないが、部分的には似ている。トイは近年、派手になっている。スンナットイ（割礼式）をする人を、カシュガルではアブダル、エンギサルではジャレーとい

う。医者のような役目である。『ウイグルラル・ウルパアデッテリ』（ウイグルの風俗習慣）には、いまでは使われない言葉がたくさんある。

【結婚】早婚が多い。女性は8-14歳までに料理、洗濯、家事を勉強した。男は7-16歳までイスラムのことを勉強して、16歳で独立した。義務教育が終わったら結婚を許される。離婚が多い理由は、田舎は生活のレベルが低い、わずかなお金で結婚してすぐ別れる、その理由は義理の父親との関係がわるい、互いの地位が違いすぎるなど。漢人との違いはない、離婚ははずかしい。文化大革命のときは漢人との結婚もあったが、宗教、友人、親戚づきあいを考えたら不可能である。近年、漢人が多くなって地元の人職がなくなって来ている。カシュガルでも半分以上が漢人で、建築、道路工事、商業などに関係する多い。

以前は、末子相続だったが、いまは2人しか子供を産めないため、それもない。計画生育に違反したら罰金があり、職も奪われるかもしれない。ウイグル人が漢人と違うところ、生活習慣、宗教、言葉、豚肉をたべない。カシュガルの中国人は食べる。1週間に1回はモスクに行く。大学の先生はイスラムに近づきすぎるのはよくないから、メッカにいけない。メッカに行く人はお金がかかるから、商売している人が多い。ワハブ派は多くない。宗教の管理はうるさい。伝統的な結婚式は少なく、ヨーロッパスタイルが多い。カシュガルでは最高2万元の結婚式費用、男が3分の2を持つ。地方は5-6千元で、年収によって違う。派手になる傾向はある。葬式は変わらない。変わったのは、葬式の後2、3日後に近所にポロを作ってご馳走するようになった。でも遺族がそれを負担するのは疲れているからよくないと思う。

トukkan（親族）の範囲はまず血によって、次は結婚によって決められる。男の血によって決める。イトコはナウラ。イトコ結婚は今少ない、昔は多かった。お金が他人の手に渡らないようにするためイトコ結婚をする。男兄弟の子供同士は結婚できない、妹の子どもだったら許される。父の名を継ぐからである。子は父の血を継ぐ。父系である。息子は必ずほしい。男は家の柱、仕事ができる。でも女の子は病気するときなど役に立つ。同じ乳母だったら、結婚できない。1万5000年前から、ウイグル人はこの地に存在した。漢人はそうは言わないが、3000年前のミイラが博物館にある。

カシュガルでは結婚式は3日間、ウルムチとか他は1日ですます。子どもは2人まで。結婚式には2-300人呼ぶ。結婚は紹介によるものが多い。自分の親戚がカシュガルでうまれてサウジアラビアにいる。

【ホータンとカシュガルの文化】似ているが、イスラムが入るのが、40-80年違う、建築、方言、服に違いがある。葬式はホータンは砂が多いから、穴を掘るとき木材を使う。家を作るときカシュガルは飾りを造る技術が発達している。ホータンでは仏教の影響で仏像をおく場所、神棚のようなものをもつ家が観光地になっている。カシュガルのほうが高い文化をもつ、ロシア、イスラムの文化の影響が強いからである。

【陶器作り】66才、旧市街に住む。この近辺は焼き物する人が多かった。子どもは4人。ナンをつくり、食堂、馬車引きをしている。焼き物はカシュガルが多く、花瓶として使われる。1円で小売に売る。そのひとがバザールで売る。安すぎる。この焼き物は今は実用品としてはつかわれない。もっといいものがある。学校は2年生まで、兄弟は7人、長男だったから、この仕事も継いだ。37年、国民党の時代の学校。今より大変だった。食べるものがなかった。49年に解放軍が来た。国民党の軍隊が5000人いた。58年に人民公社になった。会社のようなもの、女の人にはドッパをつくる、公社の名はチャーシャ(誓い)。食堂があり、給料制で仕事の種類によって5点から1点の点数制であるが、働かないひとと同じで、悪平等だった。もらえる小麦も少ない、食費は18元、1日働いても1角しかならないのに。女性は点数が低い、技術者は高い。文化大革命のときは、メケット県で農業をした。工人が必要だからと政府にいわれた。上海からも1万人位来た。半分为農業、半分为兵隊。生産よりも革命。自分は農業だけをしていた。バザールにもいけない。24年間農業。食べ物が無いから、小麦、とうもろこしをつくった。32元の月給。奥さんは病気になった。町のほうで治療したいといったら、病人はいらないといわれた。農三師という建設兵団だった。ウイグル人は少ない。武漢からの国民党の囚人もいた。

モスクの飾りもする。斜面に4階建ての家を作っている。父から焼き物を習った、20歳から自分で作れた。学校をやめて、小学2年生から父の手伝い。みようみまねで自然におぼえた、興味より生活のため。大きな道路をつくるためこの辺も壊されないか心配である。陶器のデザインはかわらない。モスクには金曜は必ず行く。近くに4つある。朝、家でお祈りをすることが多い。子どもはこの職を継がなくてもよい。今は1週間に1回、焼きももを作る。今年の夏、3回焼いた。たくさん利益が出たのは、4年前、食料局に売った。

【カシュガルの職人】銅製品、じゅうたん、ナイフ、アトラスなど手工業が発達している。どのように作るか、カーペットなど。編まないでつくる。足で踏んでつくる。

伝統的手工業がなくなっていくうちに記録する必要がある。食用油を作る工程。ジュワーズ（油を作る道具）、小麦粉を作る機械。工場で作られた絨毯は多いが、手で作る絨毯は少ない。観光用は多くなっている、家庭で使うのは少ない。職人の技術はすばらしい。技術は父から子へ受け継ぐ。ウイグル人は父のことはよく聞く、後継者は問題はない。昔は教育はなかったが、いまは義務教育だから行かないと政府がうるさい。ナイフはほとんど男の仕事、絨毯は女性。縫い物は女性、細かい技術が必要。力仕事は男性。家の中で家族で仕事は行う。エンギサルにはナイフの工場があるが、個人の工場である。公有の会社は能率が悪い。ナイフの生産量は増えている、ナイフと楽器は観光客に人気がある。工場でやると品質がよい。家族でやると質も量もわるい。産業革命とおなじ。手工業が衰退していった。手工業の人や数は変わらない。弟子入りして技術を習得するのに時間がかかる、他人の子だと技術習得以外のこともやらせる。詳しい説明はない、実技で習うよりほかはない。弟子はたくさんいる。自分の目でみる、自分でやるから、時間がかかる。自分の子に伝えるのが簡単。国内の人にもナイフは人気がある。楽器は職人街にかたまっている、桑の木で作る、職人には漢人はいない。工場では作るのは契約で決める。個人ではバザールでの売れ行きで生産額をきめる。エンギサルはその町の3分の2の人が作っている。技術も知っている。農業をしながらの人もいるが、町では専業が多い。

【医療】カシュガル地区衛生学校には、高卒と中卒の2種類が受験する、落ちる人はほとんどいない、中卒は看護婦など、高卒は医者、すべて4年間。衛生学校の医者は医士となり、医科大学卒は医師となる。衛生学校は少し簡単で、村の医者になる、医科大学は町、県の医者になる。試験を受けて医師になれる。ウイグル医学もある。外科と解剖もある。人間の解剖はしない。卒業前に病院でする。ウイグル医学はあまり知らない。副作用がすくない。手術も時々する。カシュガルでは糖尿病が多くなっている。60歳以上は脳の病気。心臓病、腎臓結石も多い。子どもでもある。原因はわからない。塩がおおく、水を飲まない。生活がよくなって、砂糖、肉をたべ糖尿病が増えた。ワクシは見たことがない。医学とコーランは関係ない。

患者はウルムチに運ぶ。村の人が平均寿命が長い、野菜、果物、とうもろこしをたくさん食べ、生活のリズムが都会より良い。朝早く起きて、体を洗い、お祈り、早く寝る、酒もタバコも飲まない。病院はお金がいる、半分は政府の保険。30年間働いたら退職、60歳は男、女は55歳、博士などは伸びる。今は38歳、退職したら病院作る

人もいる、将来のことはあまり考えない。年上は尊敬する。